

## 「空手道で一番苦しかったこと」

2015年3月9日

月心会 西東京本部 浜田山支部

名嘉 尚

私は、長男が小学校一年生、二男が年長、長女が生後八カ月の時に長男二男とともに入会しました。初めは子供達だけと思っていたのですが、二人とも引っ込み思案で中々入っていけず、ずっと見ているなら自分も子供達と一緒に始めてみようと思ったのがきっかけです。

空手を始めて第一の試練は「空手に行くこと」でした。仕事と家事と育児で常に余裕のない私は「今日は疲れているから休みたい」という自分の気持ちと戦っていました。それに加え、二人の子供達も初めのうちは毎回の様に「今日は行きたくない」などと泣きわめいていたので二人の気持ちとも戦い、いざ行こうとすると今度は、娘に玄関先で泣かれ、毎回空手に行くまでにくじけそうになったのを覚えています。

夫の強い希望で空手を始めたものの子供達はやる気を見せずに泣きだす始末で続けるか本当に悩みました。せつかくここまで頑張ったんだからもう少し頑張ってみよう。あと少し。もう少し。と続けていくうちに私自身空手の楽しさを感じるようになっていました。

そして最大の試練は組手でした。組手を始めて体力と筋力のなさを痛感しました。そんな中で初めて出場した組手の大会で足を骨折してしまい一か月ほど練習を休みました。足を骨折してしまった以上に心が折れました。骨折した状態での仕事や家事育児の大変さ、不便さ、一か月の練習の休みは空手からどんどん私の心を引き離しました。子供達も私が行けなくなっても二人で行けるくらいに成長していましたし、もう自分は行かなくてもいいのではないかと思うようになっていました。それでも顔を出すたびに「いつ復帰するの？」と声を掛けていただいたり、練習風景を見ているうちに私もやりたいという気持ちが再び芽生え復帰しました。組手の怪我への恐怖心は消えていませんがやらなければ先に進めないのもやるしかないと自分に言い聞かせて少しずつでも参加していこうと思いました。

今回初段受験に向けて今までと違った完成度の高さ、項目の多さに大きなプレッシャーを感じ、練習への気持ちも重いものになりました。そして段受験を意識した頃から黒帯の方たちの筋トレの取り組みや、基本の細かいところが気になるようになりました。自分もここまでできるようにならなければと焦りを感じました。基本がこんなに難しいと感じたのは初めてで、型も今までいかに曖昧だったかを思い知りました。細かく指導してもらえる今を機に正してより上手になりたいと強く思うようになりました。

空手を始めて約四年半、大変なことの方が多かったと思います。それでも困った時に手を差し伸べてくださった方たちや練習の為にいつも子守に来てくれた母など、多くの方々に助けられたからこそ続けてくる事ができました。また、市川本部長をはじめ黒帯指導者の方々には空手のご指導はもとより、どんなに大変な状況であっても自分に負けなければ空手を続けていく事ができるということをたくさん学ばせていただきました。この支部あってこそ続けていくことができました。これからもご指導のほどよろしくお願い致します。